

2018 年度 第 1 回日本肺高血圧・肺循環学会 理事会 議事録

日時：2017/4/14（土曜）12 時～14 時

場所：メルパルク京都 4 階 研修室 1【茜】

出席理事：巽浩一郎、伊藤浩、伊藤正明、江本憲昭、荻野均、小垣滋豊、近藤博康、佐藤徹、下川宏明、瀧原圭子、辻野一三、土井庄三郎、中山智孝、西村正治、福田恵一、福本義弘、松原広己、室原豊明、山田秀裕、吉田俊治、渡邊裕司 21 名出席

欠席理事：桑名正隆、伊達洋至

2018 年度新任理事ご挨拶

小垣滋豊 大阪急性期・総合医療センター 小児科・新生児科
 近藤博康 公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科
 辻野一三 北海道大学大学院医学研究院 内科学講座（第一内科）
 中山智孝 東邦大学医療センター大森病院 小児科
 福本義弘 久留米大学医学部 内科学講座心臓・内科部門

報告事項

1. 2017 年度（2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日）会計報告

主な収入と支出は以下のとおりである。

収入：年会費（3,460,000 円）、第 2 回学術集会余剰金（3,393,537 円）、利息（109 円）

支出：事務局経費（1,163,798 円）、奨励賞・八巻賞（530,000 円）

2. 2017 年度会員 383 名（医師：365 名） 2017 年度入会 47 名

3. 2017 年度 第 2 回日本肺高血圧・肺循環学会報告（西村正治 会長）

学会テーマ：日本らしさの発見、学際的統合そして発信

北海道札幌で開催、参加者数 525 名、海外演者 7 名

第 2 回学術集会余剰金（3,393,537 円）

4. 肺高血圧症関係の診療ガイドライン作成

「PVOD/PCH 診療ガイドライン」（Minds 認証）を 2017 年に発刊した。「CTEPH 診療ガイドライン」「肺疾患に伴う PH 診療ガイドライン」に関しては 2018 年度発刊予定。

さらに、膠原病に伴う肺高血圧症のガイドラインも今後発刊していく予定。

5. 肺高血圧症治療ガイドライン（福田恵一 ガイドライン作成委員長）

日本循環器学会と本学会の合同の PH 治療ガイドラインを発刊した。欧米を先行するものとして、近年の選択的肺血管拡張薬等も含め、全文を Circulation Journal に掲載予定。製薬会社 2 社から購入の希望があり、その購入額の一部を本学会に入れられるよう検討中である。

6. 第 8 回 Takao 国際シンポジウム（2017.10.6～8、松江くにびきメッセ）

会長：中西敏雄、山岸敬幸、事務局：内田敬子
日本肺高血圧症・肺循環学会として後援した。

7. CTEPH BPA ガイディングカテーテルの定義変更を求める要望書（佐藤徹）

要望書が採択され、“その他血管用”で算定できるように制度変更された旨の説明があった。

審議事項

1. 学会としての肺高血圧症レジストリー

2017年理事会で JAPHR Platform を本学会の公式レジストリーとして行っていくことを承認いただいた。今後 CTEPH のレジストリーに関しても、阿部弘太郎先生（九州大学）にレジストリー委員になっていただき進めていく（AMED 研究費によるレジストリー構築）。Group2 PH に関しても杉村宏一郎先生（東北大学）に委員になって頂いており、現在レジストリー構築中。

このレジストリーを用いて日本から情報発信していきたい、に関して議論した。

日本循環器学会 CTEPH に対する BPA レジストリーと重なるのではないかと、多くのレジストリーに同一症例を登録するのは労力ばかりかかる。

レジストリーは必要だが、インセンティブが必要ではないか。→ 学会として PH 専門医制度、認定施設制度を設計して、レジストリー登録が専門医、認定施設に必須とする方向性での制度設計を試みる。Working group を作成して、6月の理事会までに検討することとした（WG 委員長：福田恵一）。レジストリーの参加する起爆剤が必要と考えられた。

2. 功労会員細則、功労会員の推薦、承認

中西宣文、中西敏雄、西村正治、国枝武義の4名を功労会員とすることを承認した。

3. 学会としての研究承認

PMDA から審議を依頼されたセレキシパグとクロピドグレルの併用に関して、薬物動態を含めた研究（渡邊裕司）

Gemfibrozil とセレキシパグの併用で、セレキシパグの代謝物 MRE-269 の AUC が 11 倍に増強した。クロピドグレルも同様の CYP2C8 の阻害作用がある。

セレキシパグが ASO の適応を取る臨床試験が進行しており、安全のため併用禁忌となった。

ただし2剤の併用に関するエビデンスは限られており、当学会としてクロピドグレル・セレキシパグの薬物相互作用の研究を行うことが承認された。

4. 2018年度 第3回日本肺高血圧・肺循環学会 準備状況（瀧原圭子 会長）

瀧原圭子 会長より、本学会の新しい取り組みについて説明があった。

- ・日韓合同、さらには台湾や東アジアとも連携した肺高血圧症の研究体制構築を目指していく。そのため学術集会前日の理事会終了後に日韓交流セッションを設けた
- ・BPA のビデオライブセッションを開催予定
- ・今までも東レの研究会を学会の中で行っていたが、今回ファイザーからも同様の希望あり。

→ランチョンセミナーの金額を基に、時間に合わせて使用料を頂くという形とした。

- ・関連班会議を会期中に行ないたいという希望があり、2日目の朝に時間を設けた
- ・今後 理事の宿泊を2泊分学術集会の負担とすることにした。

5. 理事会交通費

- ・理事会の交通費に関しては、関連学会に出席していない外科・小児科領域の理事の交通費は学会から支給することとした。

6. 2019年度 第4回日本肺高血圧・肺循環学会 準備状況（渡邊裕司 会長）

2019年6月21日（金）～6月22日（土）にアクトシティ浜松にて開催する。前日に理事会を開催する。

7. 2020年度 第5回日本肺高血圧・肺循環学会 準備状況（荻野均 会長）

2020年9月26～27日に開催、場所は京王プラザホテル。

2020年にInternational CTEPH Conferenceが予定されているため、前日にInternational CTEPH セッションを予定している。

8. 八巻賞選考委員会報告（下川宏明 委員長）

2名が採点上同点のため、2名受賞とした。賞金は減額せず授与することとした。

片岡雅晴（慶應義塾大学医学部 循環器内科）

肺高血圧症に対する多角的病態機序解明と治療法発展を目指した永続的取り組みと成果
研究要旨

肺動脈性肺高血圧症（PAH）および慢性血栓塞栓性肺高血圧症（CTEPH）の病態機序解明と治療法発展に向け、基礎研究と臨床研究の両面から取り組んできた。PAHに対しては、多数患者のサンプルを収集し、病態解明に向けた取り組みを行ってきた。特に、日本人 PAH 患者における遺伝学的背景について詳細な解析を行い、治療反応性の遺伝学的差異についての知見等、一連の多くの成果を得た。CTEPH に対しては、難病とされた本疾患の予後を著明に改善する画期的な低侵襲治療法であるバルーン肺動脈形成術（BPA）について、合併症回避のための客観的指標の提唱等、多角的な解析を行ってきた。

中村一文（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科学）

肺血管のリバース リモデリングを目指した肺高血圧症の治療
研究要旨

「肺動脈性肺高血圧症（PAH）において肺血管のリバース リモデリングを起こす」ことを目的として基礎的ならびに臨床的検討を行ってきた。PAH 患者の肺動脈平滑筋細胞は増殖能亢進・遊走能亢進・apoptosis 抵抗性を示すが、エポプロステロールやある種の分子標的薬がそれらを抑制し、肺血管のリバース リモデリングをもたらす。薬剤を肺血管局所に高濃度、徐放性に投与で

きるナノ粒子吸入療法の開発を行ってきた。さらなるリバース リモデリングを目指して新規標的分子の探索を行い、新規治療法を開発し、世界中の PAH 患者を助けたい。

9. 学会奨励賞選考委員会報告（伊藤正明 委員長）

2名の応募があり、甲乙つけがたい内容であったが年齢を考慮し、赤木達氏（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科学）「ナノ粒子を用いた新規肺高血圧治療法の開発」に決定した。

10. GSK 医学教育事業助成

2018年1~12月に500万円の交付金があった。規定によりメーカーの協賛は得られないが、各関連施設で学会主催の講演会を進めていくこととした。

使用の用途は以下のとおり。

- 1) 専門医によるセミナー、研究会、講演会活動での地域診療医/研究医の育成
- 2) 地域医師による地域医師会連携での顔の見えるセミナー、研究会、講演会の実施
- 3) 学会員から非学会員も対象とする e-learning システム構築

この1)および2)は学術集会以外で、先生方の地域での講演会開催に関して、

「主催：日本肺高血圧・肺循環学会」

「共催：2017年度 GSK医学教育事業助成」とチラシに入れる必要あり。

GSK以外の製薬会社さんからの共催は不可、GSKの共催も不可、すなわちすべての製薬会社さんからの共催は不可。

2018年度の実施および予定は下記のとおりである。

- 3/7 呼吸器内科連携の会 ～肺高血圧症を知ろう～ 済生会習志野病院（田邊信宏、杉浦寿彦）
- 6/7 船橋医療センター（坂尾誠一郎、重城喬行）
- 9/5 久留米医師会内科医会（福本義弘）
- 9/22 東京医科大学 CTEPH徹底討論の会（荻野均）
- 9/27 君津中央病院（笠井大）
- 10/3 Onco-cardiologyにおける肺高血圧症（中村一文、赤木達）
- 11/22 東北大学 生涯教育講演会（下川宏明、佐藤公雄）
- 11/24 千葉市 肺高血圧症市民公開講座（巽浩一郎）

11. 新評議員の選出

慶應義塾大学 循環器内科 川上崇史

千葉大学 呼吸器内科 坂尾誠一郎

岡山大学 循環器内科 中村一文

旭川医科大学 呼吸器内科 長内忍

東京歯科大学市川総合病院 小児科 福島裕之

千葉大学 心臓血管外科 石田敬一

久留米大学 循環器内科 田原宣広

JPCPHS 理事長
千葉大学医学部 呼吸器内科
巽 浩一郎

(参考資料) 学会奨励賞選考委員会報告 (伊藤正明 委員長)

2018年4月23日

日本肺高血圧・肺循環学会理事長
巽 浩一郎 先生

日本肺高血圧・肺循環学会 「学会奨励賞」 選考に関するご報告

2018年度学会奨励賞について、学会奨励賞選考委員として選出された以下4名の委員による審査を行いましたのでご報告申し上げます。

学会奨励賞選考委員会

委員長：伊藤 正明 (三重大学 循環器・腎臓内科学)

委員：福田 恵一 (慶応義塾大学 循環器内科学)

室原 豊明 (名古屋大学 循環器内科学)

辻野 一三 (北海道大学病院 第一内科)

2018 年度 学会奨励賞候補一覧 (五十音順)

赤木 達 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科学

「ナノ粒子を用いた新規肺高血圧治療法の開発」

西村 倫太郎 千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学

千葉大学未来医療教育研究センター

「肺高血圧モデルにおける肺血管内皮細胞の増殖能・形質変化の解析」

選考過程：

2018年度の学術奨励賞には上記2名の候補者から応募があり、選考委員長、各選考委員が両者共に応募資格を満たすことを確認した。また、学会奨励賞候補者の中に選考委員の当該施設に所属する者はいなかった。評価方法として、2017年度と同一の評価シートを使用して、第一段階として各委員が独立して2名の候補者の評価を行い、それらの結果を委員長が取りまとめ、2018年4月14日、京都市メルパルクにて理事会に先立ち、選考委員会が開催され、選考がなされた。

学会奨励賞は将来の発展が期待される若手研究者に対して表彰するものである。日本肺高血圧・肺循環学会「学会奨励賞」選考に関する申し合わせに従って過去5年間の研究成果、研究論文等の業績、今後の肺高血圧症の領域のリーダーとなる資質を有する将来性を主たる評価対象とし

た。各委員からの2名に対する候補者の評価では、2名の候補者ともにきわめて優れた業績と将来性があるとの評価であった。

赤木達先生の主たる業績は、肺高血圧に対するPGI₂ナノ粒子の経気管支投与による新しい治療法の開発とその効果の分子メカニズムに関するもので、新規性や独創性に優れ、臨床研究の業績もあることから、バランスの良い研究業績と評価された。西村倫太郎先生の主たる研究業績は、肺高血圧症の分子病態における肺組織常在血管内皮細胞の関りやEndMTとの関連を解析されたもので、極めて独創性に優れ、肺高血圧の研究・診療の推進に結び付く研究であると評価された。論文業績の点数付けは僅差、将来性に関する点数付けはほぼ同等であった。赤木達先生の研究業績は、過去5年の英文論文が16編の内9編、さらに主要論文3編がいずれも筆頭著者である点が評価され、さらに本奨励賞の対象が、各年度終了時点において45歳以下という点を考慮し、2018年度の学会奨励賞は、赤木達先生に決定した。

日本肺高血圧・肺循環学会 「学会奨励賞」選考委員長
伊藤 正明（三重大学 循環器・腎臓内科学）